

氏名	和 唐 正 樹
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第1523号
学位授与の日付	平成8年3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学（一）専攻 （学位規則第4条第1項該当）
学位論文題目	Relationship between response to interferon therapy and detection of hepatitis C virus RNA by differential flotation centrifugation （比重遠心法によるC型肝炎ウイルスの分画とインターフェロ ン療法との関連性）
論文審査委員	教授 原田 実根 教授 新居 志郎 教授 槇野 博史

学位論文内容の要旨

近年、血清中のC型肝炎ウイルス(HCV)は異なる比重を持つ分画に分けられ、比重の大きな分画ではHCV粒子には抗体を含む血清成分と関連あるいは結合した形態で存在し、その感染性は低く、比重の小さな分画にはHCVがfreeで存在していて、感染性は高いと報告されている。そこでC型慢性肝炎患者血清中のHCVを比重遠心法により分画後HCV-RNAを測定し、その存在意義をインターフェロン療法の有効性と関連させて検討した。検討に先立ちProtein G Sepharose カムを使用し検討したところ、比重遠心法のbottom分画には抗体と結合したHCV粒子が多く含まれることが示唆された。治療効果との関連性を検討した18例において、インターフェロン療法開始直前ではbottom分画は全例においてHCV-RNA陽性であった。top分画は著効群で10例中1例で陽性であったが無効群においては8例中6例で陽性であった。この陽性率の差は統計学的に有意であった。これらの結果より、比重の小さなtop分画にHCVが存在することは、インターフェロン療法に対する反応性の低さを予測する因子として有用であると考えられる。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究は、血清中のC型肝炎ウイルス(HCV)を比重遠心法で低比重分画と高比重分画に分離し、各分画中のHCV-RNAをRT-PCR法で測定し、インターフェロン療法に対する治療反応性との関連を検討したものである。その結果、インターフェロン療法著効群では10例中1例にのみ低比重分画にHCV-RNAが陽性であったが、一方無効群では8例中6例にHCV-RNAが認められた。この陽性率は統計学的に有意であり、低比重分画におけるHCV-RNAの存在様式がインターフェロン療法に対する治療反応性を予測する因子として有用なことが示唆され、本研究は重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。